



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

## 文部科学省ハイテクリサーチセンターの 選定について

研究活動委員長 上條竜太郎

昨今、欧米スタイルの競争原理が日本の様々な業界で取り入れられている中、先日の朝日新聞に自動車業界の「ケイレツ」回帰現象の記事が紹介されました。一時は部品会社の価格競争を重視する欧米流の運営を取り入れ、安い価格を提示する部品会社に大量発注してコスト削減をしてきた自動車産業各社が、最近では部品会社を以前のように系列化して、開発段階から共同歩調を歩むことで品質向上とコスト削減を図ろうとしています。



日本の大学を取り巻く環境に目を移すと、研究費の配分を含め、欧米流の競争原理が随所に導入され、その傾向は年々拡大の一途をたどっています。大学の研究費は、いわゆる競争的研究費と基盤的研究費の2本立てで成り立っていて、基盤的研究費とは、研究業績等にかかわらず一定基準で支給される研究費で、研究室の基本的機能を維持するためのものです。しかしここ数年、競争原理の導入を図る日本政府の強い意向で、全ての省庁の補助金(あるいは基盤的研究費)が、続々と競争的資金に姿を変えています。この善し悪しは別として、研究費を獲得するためには、優れた業績を残すのはもちろんのこと、それを効果的にアピールすることが今までとは比較にならないほど重要です。

本学歯学部は平成17年度、文部科学省の「ハイテクリサーチセンター整備事業」への申請を行い、その結果「ハイテクリサーチセンター」として選定されました。ハイテクリサーチセンター整備事業は文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」の一環で、最先端の研究プロジェクトを実施する組織を選定し、研究遂行に必要な研究機器・研究費等を重点的、総合的に支援するものです。今回、本学歯学部がハイテクリサーチセンターに選定されたのは、歯学部の長年にわたる研究業績が高い評価を受けたことを示すものであり、誠に喜ばしいことです。歯学部の研究プロジェクト名は「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」で、各教室から参加する19名の研究分担者が中心となって研究を推進します。歯学部は本整備事業の補助金により、高度先進研究機器の整備を進める予定です。

このプロジェクトを通して、歯学部で現在進められている多彩な研究のさらなる連携が図られ、一層の研究成果が得られるものと期待されます。研究期間は5年間です。皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 四大学交流

教育委員長 佐藤 裕二

本歯学部は、同じような目標を持つ他大学と交流を深めて、卒前・卒後の教育制度についての情報交換をするともに、将来の学部学生、大学院生、研修医レベルの交流も目標に、2年前より、北海道医療大学歯学部、岩手医科大学歯学部、福岡歯科大学と意見交換をしてきました。

今回、5月30、31日に、福岡歯科大学で第3回四大学交流会ならびに四大学教務事務連絡会が開催されました。当大学からは宮崎学部長、立川学生部長、中村PBL委員長、朝倉課長、小野沢課長補佐と私が参加しました。今回はPBLがテーマであり、各大学の取り組みについて講演があり(当大学からは中村PBL委員長)、非常に参考になりました。夜は福岡歯科大学のほぼ全教授の参加のもと懇親が行われ、活発な意見交換を行いました。翌日は、来る卒後臨床研修の必須化に関する意見交換が行われ、閉会となりました。

昭和大の進んだ面を再確認すると同時に、他大学の進んでいる面についても認識が深まり、大いに刺激を受けた交流会でした。



## 海外交流

歯科矯正学教室 榎 宏太郎

4月29日、本学歯学部と上海第二医科大学口腔医学院との交流締結調印式が上海第二医科大学にて行われました。

調印式には、上海第二医科大学側から張志願歯学部長(付属第九人民医院院長兼務)をはじめとする全教授陣および本学に留学経験のある多数の先生らが出席されました。本学からは宮崎歯学部長とともに、交流締結に尽力された道名誉教授(口外)、留学生の指導に当たられた高橋科長(口腔リハ)、榎教授(矯正)らが出席致しました。式では、まず、張歯学部長が長年に渡る両校の友好関係と上海第二医科大学の現状の説明がなされ、宮崎歯学部長からは今後のさらなる学術交流の活発化が提案されて、和やかな雰囲気の中にも厳粛な調印が執り行われました。



上海から本学に留学された先生方の多さに改めて驚くと共に、上海市街の驚異的な発展の様は、今後の両校の交流の輝かしい前途を予感させるものでもありました。

## 卒後臨床研修新体制でスタート

総合診療歯科 長谷川篤司

平成17年度臨床研修が4月1日よりスタートいたしました。本年度より主として総合診療歯科が研修プログラムの実施を担当しています。臨床研修に先駆けて講義と実習を含む2週間のオリエンテーションを受講した研修医のうち、4月19日の歯科医師国家試験発表結果を受けて39名が晴れて臨床にデビューいたしました。本年度から全員が複合研修方式で研修することとなり、第1班(14名)は学外研修施設(いわゆる、従たる支援施設)で地域歯科保健活動の習得を目指して研修を開始しています。これら学外研修施設の研修医からの相談には、随時、電子メールで対応(指導)しているほか、4週毎にファックスを利用して研修記録の点検を行っています。また、第2班(10名)は学内専門各科をローテーションして専門治療の習得を目指し、第3班(15名)は総合診療歯科で一口腔単位の治療の習得を目指して、各々第1期(4ヶ月)の研修を開始いたしました。



## 教務部長に就任して

守屋 明俊

4月1日から教務部で仕事をする事になりました。もとより浅学菲才の身、恥をかきつつ勉強させて頂いているのが現状でございます。

さて、歯学部が誕生した昭和52年(1977年)4月、入職5年目の私は歯学部1回生を富士吉田校舎に迎えることになりました。それまでの白樺寮に赤松寮が加わり、俄かに活気づいたものです。私はその年の7月に旗の台校舎へ異動。歯学部1回生の諸君とは3か月に満たないお付き合いでしたが、それでも、学生の駒村雅典君(故人)とは近くの山へハイキングに出掛けたりして良い思い出を残すことができました。

その歯学部が再来年の2007年に満30歳を迎えることになり、月日の経つ早さに驚いています。現在は本学でも全学を挙げての教育改革が進められており、今後10年から20年の間に旗の台校舎はハード面でもソフト面でも大きな変容を遂げると思います。教務部長の仕事の一つとして、微力ながら、皆様方と共にその変革のお手伝いをさせて頂きますので、引き続きよろしくご指導のほどをお願い申し上げます。



## 平成18年度 大学院・研修医説明会

総合診療歯科 長谷川篤司

6月18日(土)1時30分より歯科病院第二臨床講堂にて、平成18年度大学院歯学研究科進学説明会と歯科病院歯科医師臨床研修採用説明会が共催されました。まず、槇副院長が大学院歯学研究科について、今後の歯科学の担い手として限られた機会であること、高い志を持って研究することが研究者としてだけでなく、臨床家としても重要な経験であると説明されました。さらに、昨年度より設立された大学院社会人特別選抜枠についても詳しく解説されました。続いて総合診療歯科長谷川科長が平成18年度からの必修化に伴う歯科医師臨床研修に関して、募集要項および採用試験、研修プログラム、研修病院の紹介、研修条件、マッチングの順に説明いたしました。

## D6選択実習を8月に施行予定

教育委員長 佐藤 裕二

臨床実習を終了した学生を対象にして、さらに高度ないし包括的な診療に参加して、広く歯科医療を理解することを目的として6年次に選択実習を開始することになりました。学内外・海外の教育研究施設での研修も可能であり、ここでは視野の広い歯科医師を育成することを目的とします。選択した歯科病院内の専門科で、臨床実習では時間的に無理であった実習を行い、将来の進路を考えるきっかけにもなります。また、研究にもタッチすることで、歯科医学の奥深さを理解することも可能です。本年度は任意であり、8月1日-20日(夏休み3週中の2週)をあてたところ、20名の希望者がありました。学内が10名、学外が10名でした。これから、受け入れ施設と協議を行い、充実した実習にできるよう準備を行う予定です。

来年度からは必修になり、春に8週間行う予定です。

## 教務課長に就任して

朝倉 秀夫

4月1日付を持って、歯学部課長を命ぜられました朝倉です。着任して早2ヶ月を経過しましたが、ようやく先生方のお名前と顔が一致してきたというところです。前々から大学に奉職した身ならば一度は学務関係を経験したいと思ってはいましたが、いささか年齢的に遅きに失した感はありません。日々新たな事が発生し、緊張と戸惑いの連続でややへばり気味の今日この頃です。歩んできたコースが数字と向き合う部署が長かったので、事務職員は、異動によっては居ながらにして転職した感覚を味わえるという言葉そのままです。何やら愚痴と言いつけばかりになってしまいましたが、学部長を筆頭に教員の方々の教育に傾ける真摯な姿勢にもほとほと感心したのも実感です。大きな新米を抱え、私以上に緊張しているかもしれない他の課員共々、少数精鋭で奮闘しております。改めてよろしくお願ひ申し上げます。



## 新委員長紹介

広報委員長 五十嵐 武

6月の委員改選に伴い選出された新委員長をご紹介します。  
・教育委員長:佐藤裕二教授(高齢者歯科学)  
・広報委員長:五十嵐武教授(口腔微生物学)  
・OSCE委員長:長谷川篤司助教授(総合診療歯科)  
・ワークショップ運営委員長:菅沼岳史講師(歯科補綴学)  
各委員長には歯学部だよりにて順次ご挨拶をお願いする予定です。

## チュータ養成プログラムに参加して

顎口腔疾患制御外科学 片岡 竜太

5月28日(土)、29日(日)に東京女子医大のチュータ養成プログラムに参加させていただきました。東京女子医大は1990年よりテュートリアル教育を導入し、1994年より基礎科目と臨床科目を完全に統合したカリキュラムを実施しています。このカリキュラムでは講義50%、PBL30%、実習20%の比重を占めています。1年生より1グループ7人で毎週2回午前中に105分のPBLをおこなっています。同じチュータが3ヶ月間同じグループを担当します。



このプログラムではPBLに関する講義と解説付きテュートリアル(テュートリアルの実演とその解説)、各グループ(6名)が順番にチュータを担当する6回の体験テュートリアルとPBLテュートリアル中に発生するトラブルに対する対処法を考えるグループ討議と発表をおこないました。

体験テュートリアルは異なる学年レベルの実際のPBLシナリオ体験を兼ねており、常に異なるファシリテータの下でPBLテュートリアルを体験しました。どのようなファシリテータが良いのか自分なりに感覚をつかむ事ができました。女子医大のテュートリアルの卒業生が今回はかなり参加されており、彼女達は発言、進行、ホワイトボードの使い方などあらゆる面で輝いていました。女子医大のPBLへの真摯な取り組みとその成果を体感いたしました。また昭和大学歯学部でPBLテュートリアルのファシリテータ養成WSをおこなう際も大変参考になると感じました。同じプログラムに口腔解剖学の中島先生と歯周病学の伊佐津先生が参加されました。



このプログラムに口腔解剖学の中島先生と歯周病学の伊佐津先生が参加されました。

## 教授会歓迎会

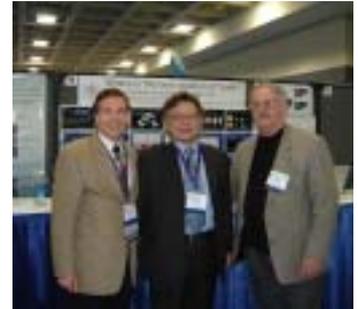
歯科矯正学教室 榎 宏太郎

5月18日、都ホテル内の中華料理「四川」におきまして、歯学部教授会主催で、新任の山本教授(歯周)、倉地員外教授(口外)、井上科長(内科)、守屋教務部長、朝倉教務課長の歓迎会が催されました。各氏は、着任の御挨拶と本学における大いなる抱負を述べられ、参加者共々、今後の歯学部の発展を期する活発な意見の交換がなされました。

## 榎教授・アメリカ矯正歯科学会・学会賞受賞

歯科矯正学教室 宮崎 芳和

5月22日、カリフォルニア州サンフランシスコ市で開催されたアメリカ矯正歯科学会年次大会において、本学矯正科の榎宏太郎教授が学会賞(Joseph E. Johnson Clinical Awards)を受賞されました。本賞は、臨床系の展示発表(Table Clinic)の中から6人の審査員による質疑応答とその採点によって選出されるものです。『Where is the best position of teeth?』と題された受賞演題の内容は、生体力学を用いた矯正治療のゴール設定に関するもので、咀嚼筋機能を考慮した新しい咬合再構築理論とその結果が提示されました。矯正学領域では最大規模の参加者(約3000名)を誇る本学会において日本人としては三人目の受賞者となります。



## 吉本先生・小児成育歯科学・優秀発表賞受賞

広報委員長 五十嵐 武

第43回日本小児歯科学会(5月26、27日)において、小児成育歯科学教室の吉本新一郎先生が「新しい齲蝕検知液(カリエスチェック)に関する研究」で優秀発表賞を受賞されました。この研究で吉本先生は、カリエスチェックで染色した齲蝕象牙質を全て削除しても、過剰切削することなく、窩壁はcaries affected dentinにとどまっていることを、ピッカース硬さ、ダイアグノデント値、SEM像により明らかにされました。



## 国際学会(ICP in Greek) 報告

高齢者歯科学 小澤 宏亮

2005年5月25日(水)~28日(土)の4日間にわたりギリシャ・クレタ島にてICP(International College of Prosthodontists)が開催されました。今大会長であるDr. Aris-petros Tripodakisの開会の挨拶で幕が開け、外国の先生を中心に90以上の講演があり、大会は全て英語で通訳なしで行われました。26日の午後1:30~3:30に行われたポスター発表においては世界各国から289題(日本からは100題)ものエントリーがあり、昭和大学から菅原先生、小澤(高齢者歯科)、石浦先生(補綴科)が発表を行いました。残念ながら三人はPoster awardを受賞できませんでしたが、ディスカッションが非常に盛んに行われ、海外の先生方の様々な指摘や意見を受け、歯科医療に対する熱心さと情熱を肌で感じる事ができました。海外の多くの先生方と話す機会があり、補綴に関する知識や考え方の違い、歯科医療のレベルを知ることができました。また話は歯科医療に留まることなくお互いの国や文化の話まで発展し大変有意義な時間と交流を持てました。今学会において世界最先端の歯科補綴医療の研究を目の当たりにし、今後の研究、歯科医療の向上へより一層の意欲を掻き立てられ、我々もっと国際的になる必要性を強く感じました。



## 昭和大学白菊の集い

口腔解剖学教室 中村 雅典

6月17日(土)に昭和大学50年記念館において、「平成17年度昭和大学白菊の集い」が行われました。当日は幸いに天候にも恵まれ、医学部・歯学部の会員288名が参加されました。学長、医学部長、歯学部長のご挨拶の後、本年度は高齢者歯科学教室の佐藤裕二教授に「来るべき超高齢社会で健やかに生きる一失われた歯と健康を取り戻す」という演題でご講演をしていただきました。会員は熱心に講演を聴き、講演後、多くの質問を佐藤先生にさせていただきました。会員の中には「こういう話しをもっと早く聴きたかった」という方々もいらっしゃいました。本年度の当番が当教室であったことで、会の運営に現在人体解剖学実習を行っているD2の学生7名が協力してくれました。彼らも献体という行為に対して、心を新たにしてくれたものと思います。

## MAS 創部50周年

歯学部顧問 岡野 友宏

学生のジャズバンド、昭和大学 Medical All Stars Jazz Orchestra (MAS) が創部50周年記念パーティーを5月22日、南青山のBLUENOTEで開催しました。当日は小口理事長をお迎えし、現役のバンドからOBのバンドまで、かつて山野ビッグバンドコンテストで輝かしい実績を残したクラブにふさわしい華やかな演奏会となりました。とりをつとめた鈴木一宏先生(歯14期・平8卒)のセッションで最高の盛り上がりとなり、MASの発展を期待して閉会しました。



## 昭和大学公開講座

公開講座委員 五十嵐 武

- ・ 嚙下障害への歯科的対応  
藤が丘リハビリテーション病院・第3回・6月4日(土)  
高橋浩二先生(歯学部口腔リハビリテーション科助教授)  
青葉公会堂で公開講座が開催され、講師の1人として高橋浩二先生が講演されました。
- ・ インプラント(人工の歯根)治療について  
旗の台校舎・第31回・6月18日(土)  
倉地洋一先生(歯学部顎口腔疾患制御外科学教授)  
昭和大学4号館600号教室で公開講座が開催され、講師の1人として倉地洋一先生が講演されました。

## 診療統計

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	15,628	744.2	725.9	676.4
入院患者	364	11.7	12.1	9.2

平成17年5月分

## 編集後記

広報委員 宮崎 芳和(歯科矯正学教室)

お忙しい中、歯学部だよりのためにご執筆下さった先生方に心から感謝致します。また、今回の発刊と、私の国外出張とが重なってしまったために、五十嵐先生には大変ご迷惑をおかけ致しました。様々なご配慮下さいましたことに心からお礼申し上げます。

なんとか発刊までに漕ぎつけましたことに、関係各位の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 7月2日(土) : 昭和大学歯学会総会
- 7月23日(土) : OSCEトライアル
- 7月25-27日 : 医学教育者のためのワークショップ
- 7月26日(火) : 臨床実習オリエンテーション
- 7月29日(金) : 研修医・大学院説明会
- 7月30日(土) : オープンキャンパス
- 8月8日(月) : 臨床実習開始
- 8月18-20日 : 歯学教育者のためのワークショップ
- 8月27日(土) : オープンキャンパス
- 8月27-28日 : 臨床研修指導歯科医講習会

## 報道された歯学部

広報委員長 五十嵐 武

- ・ 向井美恵先生: 朝日新聞 2005.5.23朝刊1面「天声人語」
- ・ 弘中祥司先生: ママChan6月号 2005.5.19. 2面  
「じょうぶな歯で健康にすごそう」
- ・ 道脇幸博先生: 日本歯科新聞 2005.6.7.  
「嚙下運動 四次元観測に成功」
- ・ 昭和大学歯科病院: リビング新聞(東京中央・南・西各紙)  
2005.6.4. 編集記事「リビングパートナーのイチオシの病院! ~ 歯医者さん編 ~」